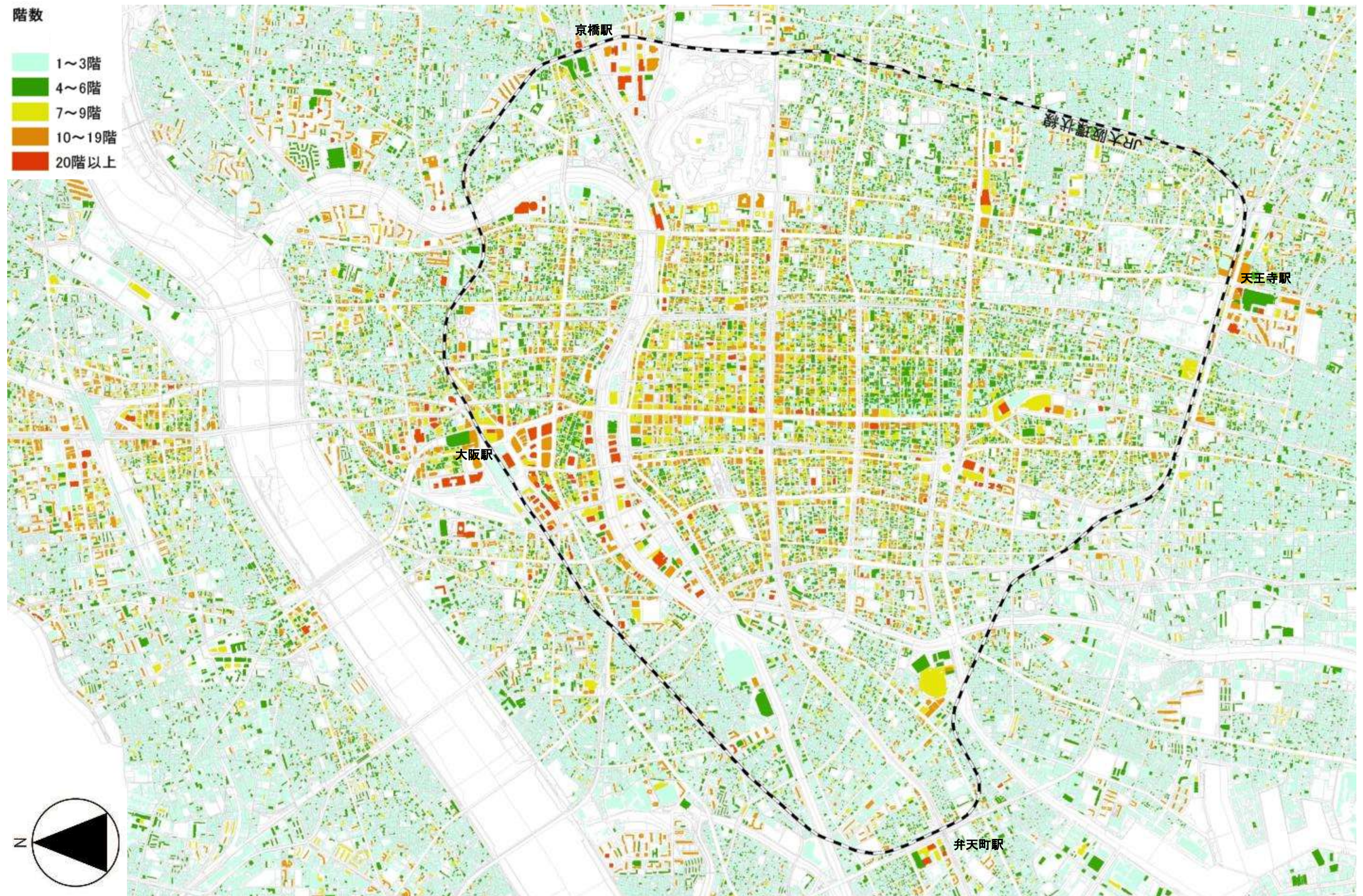
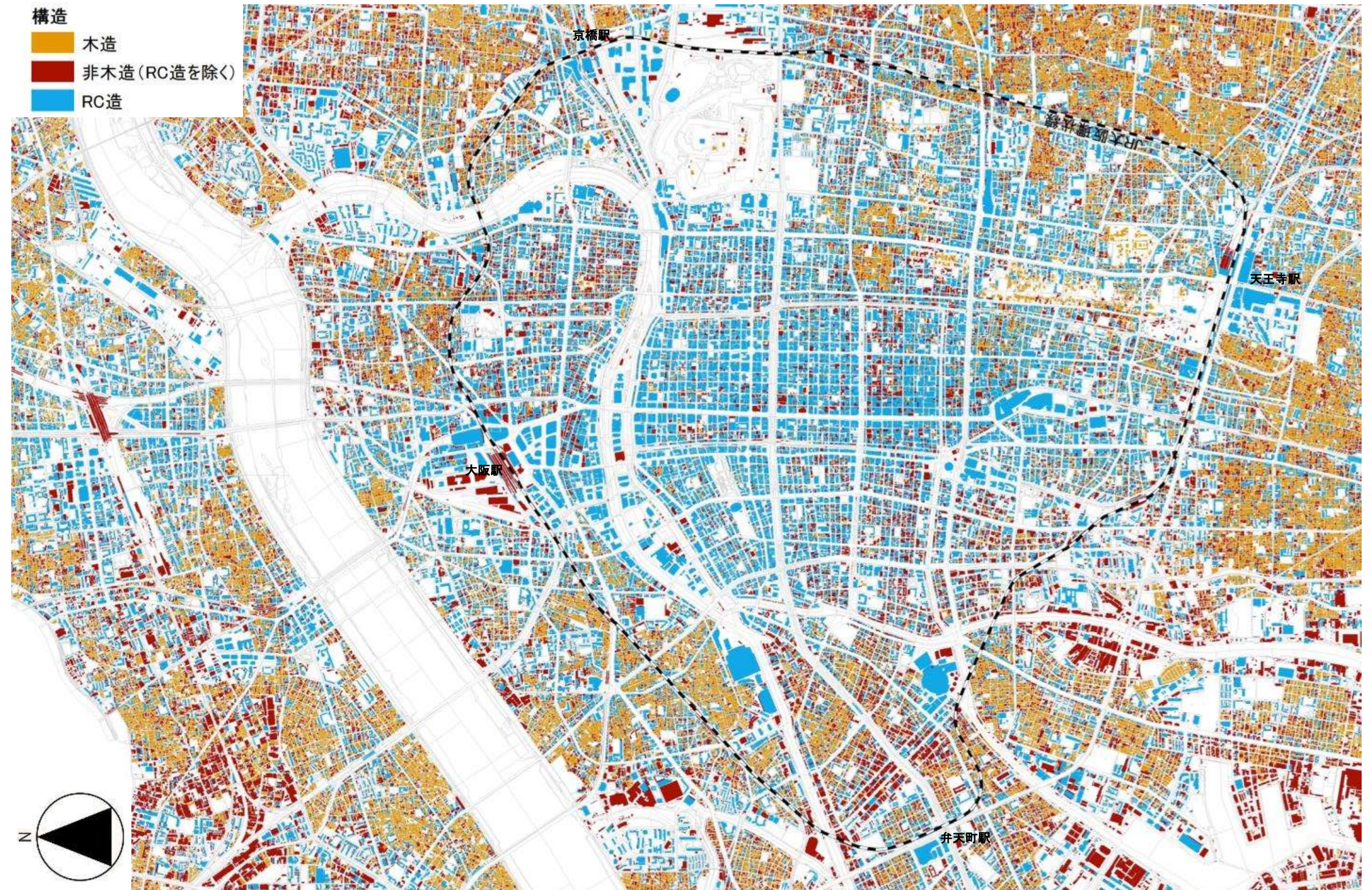


○建物の階数別分布（都心部）



【出典：GIS建物現況図データ(H25)】

○建物構造（都心部）



【出典：GIS建物現況図データ（H25）】

【都市空間の要素：軸的な空間要素】

- 河川は、まとまりのある景観を区切り、また、沿線に建築物等が連続することで“かわなみ”を形成するとともに、船舶の運航により河川上自体が線状に移動する視点場となりシークエンスに富んだ景観を提供するなど、景観上骨格的な役割を担っている。
 - 淀川、大和川、神崎川は、広幅員で自然堤防（土堤）と高水敷を有する河川であることから、パノラマ景観が広がっている。
 - 大川、堂島川、土佐堀川は、広幅員で自然な蛇行を有する河川であり、都心近郊の市街地内にあって連続するオープンスペースとして軸的な景観要素となっている。
 - 道頓堀川、東横堀川は、中小規模で直線的な河川である。都心部に位置することから、沿川の建物が密度高く立地している。
 - 安治川、尻無川、木津川は、海浜部付近は護岸が高くなり、パブリックアクセスが低い状況になるが、尻無川や木津川の一部区間に親水性の高い空間を有するスーパー堤防が整備されている。沿川の建物は工場や倉庫の割合が高い状況にある。
- 一般的に、幹線道路沿道では、人通りが多いことから代表的な線状の視点場としての役割を担うとともに、接道する建築物の配置に指向性を生み、ファサードが連続し、広告物が敷地際等に並び、街路樹が連続するなど、列状にまとまりのある景観を形成する。
 - 本市においては、特に都心部の幹線道路沿道において、比較的高層の建築物が連続し、整った“まちなみ”を形成している。一方、都心部以外の市街地では、幹線道路沿道においても低層の建築物が多く、その景観に連続感や統一感を感じられない。
 - 都心部の幹線道路は、沿道に建物が建ち並ぶ街路景観を形成し、景観上の骨格となっている。

○河川・海岸線



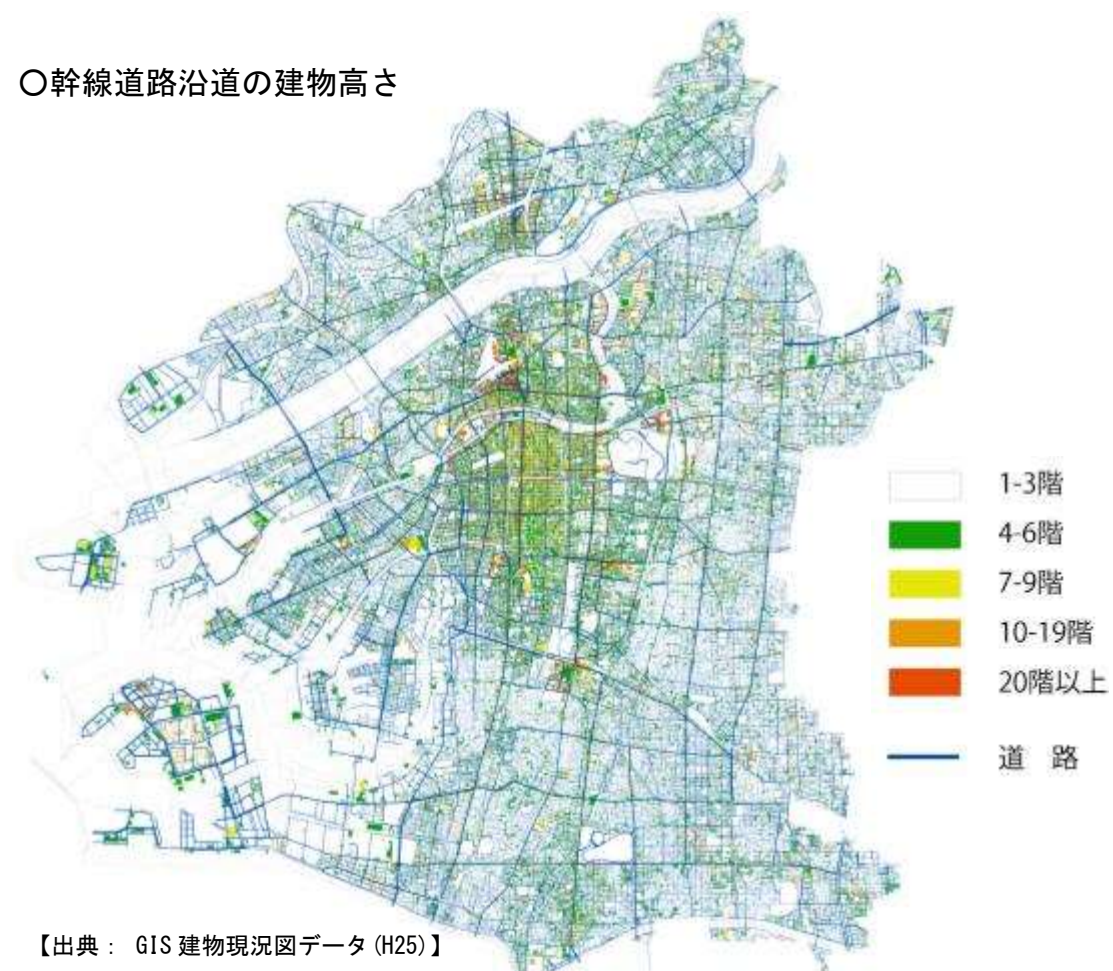
【出典：GIS土地利用現況図データ(H25)】

○幹線道路

- 建築美観誘導路線
- 愛称道路(建築美観誘導路線以外)
- 一般国道(建築美観誘導路線以外)



○幹線道路沿道の建物高さ



【出典：GIS建物現況図データ(H25)】



スカイラインが整ったまちなみ（四ツ橋筋）



バラツキのあるまちなみ